

ケアポート板橋 特養3階

症例概要 90代 女性

高血圧・統合失調症・認知症・骨粗鬆症・貧血・両側胸水

入所当初より幻聴・幻覚があり、お部屋やラウンジでお一人で過ごされる事が多かった。チームで「みんなで作って食べようの会」を企画実行。他利用者さんとも協力しながら料理を作り、やりがいや役割、笑顔の時間が多くなっていった。その後も「誰かの役に立つ活動」を提供し、孤独になる時間は減少となるも、R5年12月心不全で入院。お看取り前提での退院となり、4日後にご逝去となる。その後、ご返信頂いたご家族からのお看取りに関する振り返りシートには「ケアポート板橋に入所して良かった」と今までにないお言葉を頂ける。ご本人、ご家族の思いに寄り添い、懸命に親身な対応を行い、ご家族からこれまでにない評価を頂いた症例。

内 容

独居で生活をされていたが、R3年6月の転倒にて左大腿骨骨折。在宅復帰が困難となりR4、年1月にケアポート板橋に入所となりました。入所当初より「人殺しがいる」「みんな私の悪口を言っている」「私なんて何も役に立てないから死んでもいい」等の悲観的な幻覚、幻聴が見られ、お部屋やラウンジでお一人で過ごされる事が常でした。

ご本人の意向に添い、ゆっくり何度もお話を傾聴していくと、「美味しいものが食べたい」「昔は料理を作っていた」との情報を得る。すぐに担当者が中心となり、「みんなで作って食べようの会」を企画。買い物から仕込み、料理を行い、他のご利用者と協力しながら作業を行い、料理を他利用者さん、職員にも提供することで、誰かの役に立てる体感して頂く支援を行う。作業中は悲観的な言葉が無く、和気藹々とした空気が流れ、終始笑顔でした。

その後も定期的に活動を継続し、まるで別人の様に生き活きと生活を送っていた矢先、心不全が悪化。入院となり、在宅復帰は難しいとの判断でしたが、安心できるケアポート板橋での看取りをご家族は希望され、退院から4日後の朝、苦しまずにご逝去されました。

年が明け、約1ヶ月後にご家族からのお看取りに関する振り返りシートが届く。その中で、「医師からの診断を受け、CM、介護士、看護師の方々が家族同様の気持ちで受け止めて頂き、精一杯お看取り介護をして頂いた事は大変感謝しています」

「ブログで日常のシーンを伝えて頂いたり、お楽しみ会等の季節イベント等工夫して頂き、孫たちも面会出来ない分情報を得る事ができるなど各種工夫と努力に感謝している」

「退所する際にスタッフの方ほぼ全員に見送って頂いた事に象徴される事ですが、家族の様に心こもったケア、サポートして頂いた」

「精神的に不安定だった母でしたが、日々寄り添って頂きスタッフの方に自らの気持ちを伝える事により、多少苦しみから逃れる事が出来ている姿を見て『ケアポート板橋』に入所して良かったと思っています」と、今までにない数々の感謝のお言葉が記載されておりました。

特養では、特にお食事が食べられなくなってから看取りケアが始まるのではなく、入所されたその日から看取りケアは始まっていると考えます。まさに今回の事例は、新たな住居に越され、不安の中落ち着かない日々を過ごし、その状況に我々全ての職種が専門性を持って、お一人の為に親身な対応を行った結果を評価して頂いた事例であると思います。

キラキラ介護賞に値すると思い推薦いたします。